

メスゴリビッチ

水着ジヤヌさん





最近<sup>グラン</sup>団長が私とSEXしてくれない…  
原因はわかってる。近頃新たな力に目覚めた  
アルルメイヤに今は四六時中構いつばなしだからだ。  
『おっ♥おっほおお♥♥♥団長っ♥♥もう許してくれっ♥♥  
ハーヴィンの体にはヒューマンのチ●ポのサイズでも  
もういっぱいっばいっばいなんだっ♥♥♥♥  
その上子宮は団長のチンポ汁でもう満杯だっ♥♥♥♥  
これ以上は胃袋にもケツ穴にも入らないっ♥♥♥♥  
壊れるっ♥♥壊れてしまおうっ♥♥♥♥』

そして欲求不満にたえられなくなった私は  
他の団員を見習って、他の雄を漁りに海へ出た。  
コルワヤソーン、ヘルエス達が軽薄そうな男達に  
連れられてどこかへ行くのが遠目に見える。  
全く：釣った魚に餌をやらないから  
ああやって碌でもない男達に浮気ま●こ  
されてしまっんだ：

団長の部屋の前に行くと漏れてくる  
アルルメイヤの牝の声…羨ましい。  
私が新しい力に目覚めた時はこのバキバキの腹筋が  
はち切れそうになるくらい精液を注ぎ込んでくれたのに…  
新しい玩具を手に入れるとそればかりに夢中になってしまっ  
団長の悪い癖だ…彼にハメられたい牝は山程いるのだから  
もう少し、団長のチ●ポ中毒になった他のおま●こ穴にも  
目を向けて欲しいものだ。

ふふ…♥わかってる♥♥  
団長は浮気SEXした後、その行為を  
牝に告白させながら浮気してきたま●こに  
ハメるのが大好きな、困った性癖を持った  
男だからな…♥♥  
私も楽しみだよ…♥ 団長以外のち●ぽも  
その後の嫉妬に狂ったバキバキち●ぽも…な♥♥





「うわ…すげ…なんだあれ」  
(ふふ…♥見ている…♥♥見られている…♥♥)  
「このような穴あき水着を着て、二目で『SEXするための海にきています』とわかるような格好をしても、なかなか男に誘われないのはメスゴリラ体型の哀しい所だ…」

ほうら♥腋ま●このサービスを  
してやるぞ♥♥♥  
どんなインポでもニ嗅ぎで  
ち●ぽのおっ勃つ汗と牝の臭いで  
ムンムンの蒸れ腋だ♥♥♥

しよっぱくって酸っぱくって  
思わず孕ませたくなるほど  
癖になると团长には  
大好評の臭腋だぞ♥♥♥



ふーっ

ふーっ

ちゅあ  
ももも

もん

ももも

あは

俺は無理っす…

さあ、いつでもいいぞ♥  
この筋肉ま●こにハマてくれ♥  
ギョウギョウに締め付けられるから  
ち●ぽに自信がなくても大歓迎だ♥  
デカち●ぽな事に越したことはないが  
今はどんなち●ぽでもいい気分なんだ♥  
どろどろの汗たくSEX♥  
しよっぱくないか♥♥♥

…え？ 食いちぎられそう？  
このチキン共がッ

ニク

ブル

ニク

ニク



はあ

その後…私の事を情熱的に  
見つめていた、どこか少しだけ  
団長に似ているドラフの少年を  
岩場の陰まで半ば無理やり  
連れ込んだ。

「おお姉ちゃん…ぼ、ボク…」  
「わかってる♥私とおま●こ  
したいのさろう…?」  
全私に任せておくといい♥♥」

「ああ…股間をそんなに  
膨らませてその歳で  
こんな筋肉女が  
好きなのか…ふふふ♥」  
「あうう…」

年齢の割に立派な、  
だけどふにやりと芯が  
弱いのが特徴の  
ドラフのち●ほ…  
皮が被っているのが  
年相応で可愛い。  
私がチンカスをしつかり  
掃除してやろう♥

「んっ♥んもおっ♥♥」  
「うあっ あああっ」  
じゅるるっ♥れるれる♥  
「はあ♥はあ♥♥なんて  
苦しよっぱくで臭っさい  
チンカスなんだ!!♥」

「ん、めんなさい…」  
お姉ちゃん…っ」  
「? 謝る事はなにもない♥  
私は君のようなシヨタち●ほの  
熟成されたチンカスが  
大好物なんだ♥♥」  
じゅろろ♥じゅーっ♥  
ちゅほちゅほ♥♥  
「もつと食べさせてくれ♥  
包茎皮の裏の臭エロチーズ♥♥」

「ひっ。溶けるっ。  
お姉ちゃんの口の中で  
ボクのちんちんが  
溶けちゃうよおっ♥♥」  
「こら逃げるな♥  
ち●ほがじゃぶり難いさろう♥  
いや、むしろ犯している感じが  
増してむしろ燃えてくるな♥  
もう少し強く抵抗して  
みてくれ♥♥」  
「じゅろろろろろろっ♥♥  
「ひいひいひいっ♥♥」

































